

「全鍍連」 2019年 2月号 巻頭言

全鍍連 技術委員長 荒井 亮治（信光工業(株) 代表取締役社長）

「大きな転換の年？」



年明け早々、米中の貿易摩擦等から、株価も下がったり上がったりし、世界経済の見通しも波乱含みの展開となっています。我々の事業も世界経済の動きに左右される事が多くなって来ており、先行き見通しが建てにくい状況になって来ています。

世界経済の動向の根底には、中国とアメリカとの技術覇権争いが背景となっています。「中国製造 2025」の政策で、国主導による投資や産業補助金を大量に投入し、一方製造業や先端技術を守るための関税をかけ、技術移転の強要等、不公平であることが、貿易摩擦の根底にある様です。

今の状況は中国の経済・技術力を甘く見ていすぎるのではとの警鐘でもあります。世界の先端で学び、中国に戻って補助金やベンチャーキャピタルと組んで新しい事業の起業も多く、非上場ながら巨大な評価額になっているユニコーン企業も、世界の3割にも成っているとの事です。一方中国国内の都市が得意分野でイノベーションを競う構図も出来ており、技術力を裏付ける指標の一つの、特許出願件数も世界のトップとなっています。

経営トップの即断即決力や、開発費においても売上げの3,4割と高い企業が多いのも事実のようです。14億人弱の人口が、日本の高度成長期と同じ様な意気込みと、AI、Iotの駆使で対応して来れば、今後さらにキャッチアップされる分野は相当あると思われます。

技術革新スピードが加速してきている昨今、中国対応も必須となってくると思われます。

今年は亥年、よく荒れる年ともいわれます。平成から新たな元号への節目でもあり、世界経済も荒れはするものの、より新たな方向、合意を形成していくものと信じています。大きなスタンスで見ると、今年は大きな節目の年になると思われま

す。我々の表面処理業は、お客様の加工した製品に、希望する機能被膜を満足する被膜を施すことが基本です。その要求機能が高ければ高いほど付加価値は高くなり、難しさも増します。

幸い、要求機能は多岐にわたっている業種で、切り口も多く、未知の特性機能もまだ多く有ると思います。今まで通りから、さらに深く追及し続けることが、これからの変革に対応できる業界となると、確信しています。新たな機能の確立へ行動しましょう。